

# KUYC LETTERZINE



京都大学体育会ヨット部 活動報告

□団体戦予選 □部員インタビュー □夏合宿 □琵琶湖セーリングチャンピオンシップ

2021.10.30

[ Vol.0024 ]



## 団体戦予選

スナイプ級、同志社に英字なしでの勝利は快挙！  
本選での総合入賞に向けて両クラス頑張ります！！

4回生スナイプスキッパーの大山です。10/8-10に行われました近畿北陸学生ヨット選手権大会について報告させていただきます。

1日目は不安定な北風の中1レースのみ成立しました。

2日目は北風の軽風域で5レースを行いました。スナイプチームは、どのレースでも2艇以上が6位以内でレースを展開するなど、3艇で点数をまとめることができました。一桁の点差のなかで同志社大学に追いつき追い越される状況が続き、6レースを終えて点差ゼロ、まさに一騎打ちの状態です。2日目を終えました。一方で470チームは、毎レースごとに同志社大学に10点ほど差をつけられる苦しい展開となりました。しかしその中でも、3,4位チームとの接戦では譲らず、交代要員を多く使いながら2位をキープし、最終日につなげました。

3日目は沖待機ののち12時頃、東よりの風でレースが始まりました。スナイプは全艇シングルでフィニッシュしたものの、同志社大学と4点差の2位で最終レースを迎えます。オーバーパワーまで風が上がってくる中に行われた最終第8レース、レスキューからの風情報をもとに右海面で勝負をかけた京大3艇は1上で1-3-6と順位をまとめます。そのままフィニッシュまで順位を落とすことなく、同志社大学に6点差をつけての逆転優勝が決まりました。470も2レースを危なくなくこなし、2位を守り抜いての予選突破となりました。

本年度は予選の開催時期が例年に比べて遅く、全日本インカレまで残りの日数が少ないこともあり、両クラス共に1位での突破をより強く意識しながら練習してきました。予選から本戦までの3週間、悔いのない毎日を過ごしさらなるレベルアップをはかってまいりますので、本戦での躍動をどうか楽しみにしてお待ち下さい。

日々練習に励んでいる部員の生の声をお届けします。今回はヨットに情熱を注ぐ二人です。  
470からは井上大地(4)、スナイブからは村山航大(4)へのインタビューです。



470 スキッパー

## 井上 大地

1998年福岡生まれ。修猷館高校ソフトテニス部出身。工学部物理工学科。  
凝り性の権現。自分の走りを模索しながら着実に付けてきた実力を本選で発揮してほしい。東海オンエアが好きすぎて、蒲郡での練習後、京都に帰る道中で、聖地まんぷくやに寄るほど（ひとりて原付）。

### Q.ペアとの思い出

A. 4回生から大島とずっと乗ってますが、沖でも丘でも常に一緒にいる2人という印象が強いのではないのでしょうか。そんなラブペアの1番の思い出は2人で食べた回鍋肉です。部活終わりにイオンで買い物して、大島の家に行って回鍋肉を作り、2人でミーティングしながら夜ご飯を食べる。仲良しすぎて吐き気がしますね。僕の大学生活唯一の友達にふさわしい仲良いエピソードでした。後日ハンバーグも作ったのですが、あれは失敗したので思い出したくもありません。

### Q.京大ヨット部の好きなのところは？

A.京大ヨット部の好きなのところはみんなの心がヨットでしか繋がっていないところ。一見するとマイナスポイントに聞こえますが、ヨットという競技に出会ったことで本来交わらなかつた人たちと巡り会えたこと、それぞれの共通点がヨットくらいしかないことでいつ会ってもヨットの話しかしないところ、このようにみんながヨットを愛しすぎて他に目が向かないため、部員はヨットでのみ繋がっています。こんなに部活を愛している人が多い部は中々ないと思います。

### Q. インカレにむけて

A.僕にとっては最初で最後のインカレとなります。自分はこれまで何も部に貢献できていないため、最後のこのレースでは少しでも多く貢献できるように頑張ります。また、ペアの大島と共に強風要員として蒲郡インカレを迎えるため、みんなの期待以上の成績を残す所存です(なお、このインタビューに答えた日はMAX30knotの強風の中なす術なく沈して蒲郡の洗礼を浴びた模様)。プレッシャーに打ち勝ち、去年の先輩方の雪辱も晴らしたいと思います！



井上、大島ペア。  
沖に向かっていく4回生の背中、カッコいいです。  
いつも艦装が早くて、一番出艇で気合十分です！！

### Q.尊敬する先輩は？

A.尊敬する先輩はたくさんいらっしゃるのですが、今回はセインツさん（青木コーチ）をあげたいと思います。セインツさんは三年前の蒲郡インカレでスナイブリーダーをされていて、京大スナイブが躍進するきっかけを作った方です。セインツさんがすごいのは本質をつかむ分析力だと思います。セインツさんにたたき込んでいただいたスナイブのエッセンス、全日本インカレの戦い方は今の私のセーリングの基礎になっていますし、これからも京大ヨット部の礎として継承し続けていきたいと思っています。

### Q.これまでの部活を振り返って

A.この二年間は特にコロナの影響を大きく受けました。今まで当たり前のようにやって来た艇庫生活や長期遠征ができなくなり、ヨット部として、チームが毎年結果を出せるようにするルーティーンのようなものも出来つつありましたが、それも実践しづらくなって、昨年は残念な結果となりました。先輩方が作ってきた勝つためのプロセスというのはいかに多くの意味や目的が重なり合ったものだったのかを実感するとともに、一つ一つの行動にどのような意味があるのかを深く考えるようになりました。

### Q. インカレに向けて

A.全日本インカレという大会は僕が経験してきた中で一番好きな大会です。一番多くの人の熱意を感じる大会であり、注目を集める大会であると思います。あの独特の緊張感と脈やかさの中でするレースは何者にも代えがたいものがありますね。今まで何度でも出させていただきましたが、これで最後というのは非常に残念です。最後の大会もしっかり楽しんできて、全員にとって忘れられない大会にしたいと思っています。



団体戦にかける思いは熱く、チームレースでの走りには一層磨きがかかる。  
写真は予選で、トップフィニッシュした直後の村山・岡本ペアの姿！



スナイブ スキッパー

## 村山 航大

1999年滋賀生まれ。膳所高校ヨット班出身。工学部地球工学科。スナイブ級躍進の中心選手として4年間走り続けた名実ともにエース。そんな彼もやたら焼肉を所望していた下級生時代とは打って変わり、最近では専らサラダがないと食が進まない。

## 1回生 夏合宿で学んだこと

こんにちは、一回生スナipsスキッパーの目木涼介です。さっそく夏合宿で学んだことを書いていこうと思います。7月中旬頃にクラス分けがあり動作が固まっていなかった状態だったので、動作を完璧にしようという目標を持って夏合宿に臨みました。毎日動作練を行い、疑問点は練習後のミーティングで先輩方に尋ね、家に帰ってからは自分の動作の動画を見て反省することを繰り返し行い、合宿終盤には安定して同じ動作ができるようになりました。しかし、強風での動作は機会が少ないのがありますが課題が残っています。夏合宿は終わりに近づき、帆走練やトレインが増え動作練からの新たな段階に進みつつあります。夏合宿の目標は概ね達成できたと思いますが、これからも更なる成長を求め日々練習を頑張っていきたいと思っています。



はやく先輩に追いつけるように頑張ります！

## 琵琶湖セーリングチャンピオンシップ@柳ヶ崎

お世話になっております。3回生470スキッパーの古澤です。先日行われました、琵琶湖セーリングチャンピオンシップについて書かせていただきます。1日目は左右に振れる三井寺の風だったため、どの場所からスタートしても、コース引きで順位を上げていける海面でした。2日目は左海面の有利が強かったのですが、上ピンからのスタートに固執してしまい順位を上げることができませんでした。今回のレガッタ通して、凝り固まった思考で上ピンに固執してしまいました。結果としては14位で、繰り下げで全日470への出場権を獲得することになりました。情けない結果になりましたが、全日本ではフレキシブルな思考で戦っていこうと思います。応援よろしくお願いします。



ベアの寛松との写真です。  
団体戦本戦も二人で精一杯頑張ります！

## ポイントレース@柳ヶ崎

2回生470クルーの保家大将です。

午前中は水面が鏡のようでしたが、午後から中デッキ～オンデッキほどの軽風が入り、2R行われました。

1Rはスタート時でのポテンシャルのまま順位が決まり、2Rは風が大きく右に振れるなど風に対して上手く走るのが難しいといったコンディションでした。自艇については、スタートでは混んだスタートに自信がなかったため、ラインが下有利ということもあって比較的空いていた上側を選択し、(結果としては低めとはなりましたが)、早くフレッシュウィンドをとる事ができました。

また、レース中の艇速が課題でしたが、1上についた時、京大の中でいつもよりいい順位を取ることができたので、夏の帆走練の成果を出すことができたと思っています。

このレースを通して、夏の間帆走で沢山やったクローズとランに関しては他の艇に走り負けるといったことはほぼ無かったですが、あまり練習出来ていなかったリーチングに関しては艇速がまだまだだったということが身をもって実感しました。レースをすることで新たに課題点が見えてきたので、次のポイントレースやプレプレに向けて頑張っていきたいと思っています。



86代全員で出る最後の試合となりました。  
各ベア課題を見つけることができました！

## レスキュー便り

プレイヤー以上に情熱あふれるマネージャーたちの活動や思いについて紹介します。

### ～ヨット部のやりがい～

ヨット部マネージャーのやりがいは、練習の質向上に貢献出来ることです。特にレースを想定した練習の運営は効率良くこなす程良い練習に繋がります。どんな練習の効率も少しずつあげることでプレイヤーの技術向上に繋がると信じて頑張っています！



4回生  
マネージャー  
佐藤 弓月

京都大学体育会ヨット部

滋賀県大津市鏡が浜番外地  
京大ヨット部艇庫

[tel] 077-525-0312

[hp] <https://www.kuyc-home.com/>

[mail] [kuyc.2013@gmail.com](mailto:kuyc.2013@gmail.com)



<https://twitter.com/kuyc>



<https://www.facebook.com/kyotosailing/?fref=ts>



[https://www.instagram.com/kuyc\\_food/?hl=ja](https://www.instagram.com/kuyc_food/?hl=ja)